



平成23年12月期 決算説明資料

2012年2月14日

昭和シェル石油株式会社

注意事項

この資料には、当社グループ(当社及び連結子会社)の将来についての計画や戦略、業績に関する予想、見通しの記述が含まれています。

これらの記述は、本資料の発表日現在における情報に基づき判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

従いまして、経済情勢や市場動向、並びに為替レートの変動等の要因により記載の予想数値とは異なる結果となる可能性がありますので、予めご了承下さい。

通期決算ハイライト

■ 原油価格と為替レート

		2010年	2011年
ドバイ原油価格	(USD/バレル)	78.1	106.3
為替レート	(¥/USD)	87.8	79.8
	(¥/EUR)	116.3	111.1

■ 連結損益計算書ハイライト

(百万円)	2010年度	2011年度	増減	前年同期比(%)
売上高	2,346,081	2,771,418	425,336	+18.1%
営業利益	36,701	60,288	23,587	+64.3%
営業外損益	5,446	1,519	-3,927	-
経常利益	42,148	61,807	19,659	+46.6%
※在庫影響	7,861	31,787	23,926	+304.3%
※CCSベース経常利益	34,286	30,020	-4,266	-12.4%
特別損益	-5,891	-5,096	794	-
当期純利益	15,956	23,110	7,153	+44.8%

【注】カレント・コスト・オブ・サプライ(CCS)ベースの収益: たな卸資産の評価の影響を除いた原価を用いて算出する収益

セグメント情報

■ 平成23年度通期

(百万円)	石油事業	エネルギーソリューション事業	その他	調整額	合計
売上高	2,695,278	65,799	10,339	-	2,771,418
営業利益	87,267	-28,895	2,056	-138	60,288

■ 平成22年度通期

(百万円)	石油事業	エネルギーソリューション事業	その他	調整額	合計
売上高	2,304,019	28,863	13,198	-	2,346,081
営業利益	45,569	-11,581	2,718	-4	36,701

- ・石油事業：揮発油、ナフサ、灯油、軽油、重油、潤滑油、LPG、アスファルト、化成品等石油製品の製造・販売
- ・エネルギーソリューション事業：太陽電池モジュールの製造・販売および電力の卸供給
- ・その他：不動産、建設工事、自動車用品の販売およびリース業等

2011年度通期収益状況

- 平成23年12月期連結業績は、売上高2兆7,714億円(前年同期比18.1%の増収)、経常利益618億円(同196億円の増益)となりました。また、たな卸資産評価の影響を除く実質経常利益(CCSベース経常利益)は300億円(同42億円の減益)となりました。
- 石油事業においては、原油価格の上昇とともに石油製品の販売価格も上昇し、売上高は増収となりました。利益面では、前年同期比で原油価格が上昇しているために在庫評価益が増加したこと、灯油などの中間留分を中心に販売数量が拡大したこと、また第3四半期までは全体的にマージンが安定的に推移したことから増益となっています。結果、CCSベースの石油事業連結営業利益で、平成12年に現在のたな卸資産評価方法に変更して以来の最高益を達成しました。
- エネルギーソリューション事業の主力事業である太陽電池事業においては、本年2月に稼働を開始した国富工場(年産能力900MW)が順調に稼働を高め、フル生産体制に移行しました。世界中のマーケットでソーラーフロンティアおよびCISの技術力が認知され、信頼が増した飛躍の年となりました。
前年比で生産量・販売量ともに増加していることに伴って売上高は増収となりました。一方、同工場の立ち上げに係る費用が特に上半期で発生したこと、年間を通じて販売単価の下落が続いたこと等により、収益は前年同期比で大きく悪化しています。

事業概況(10-12月)

■ 石油事業

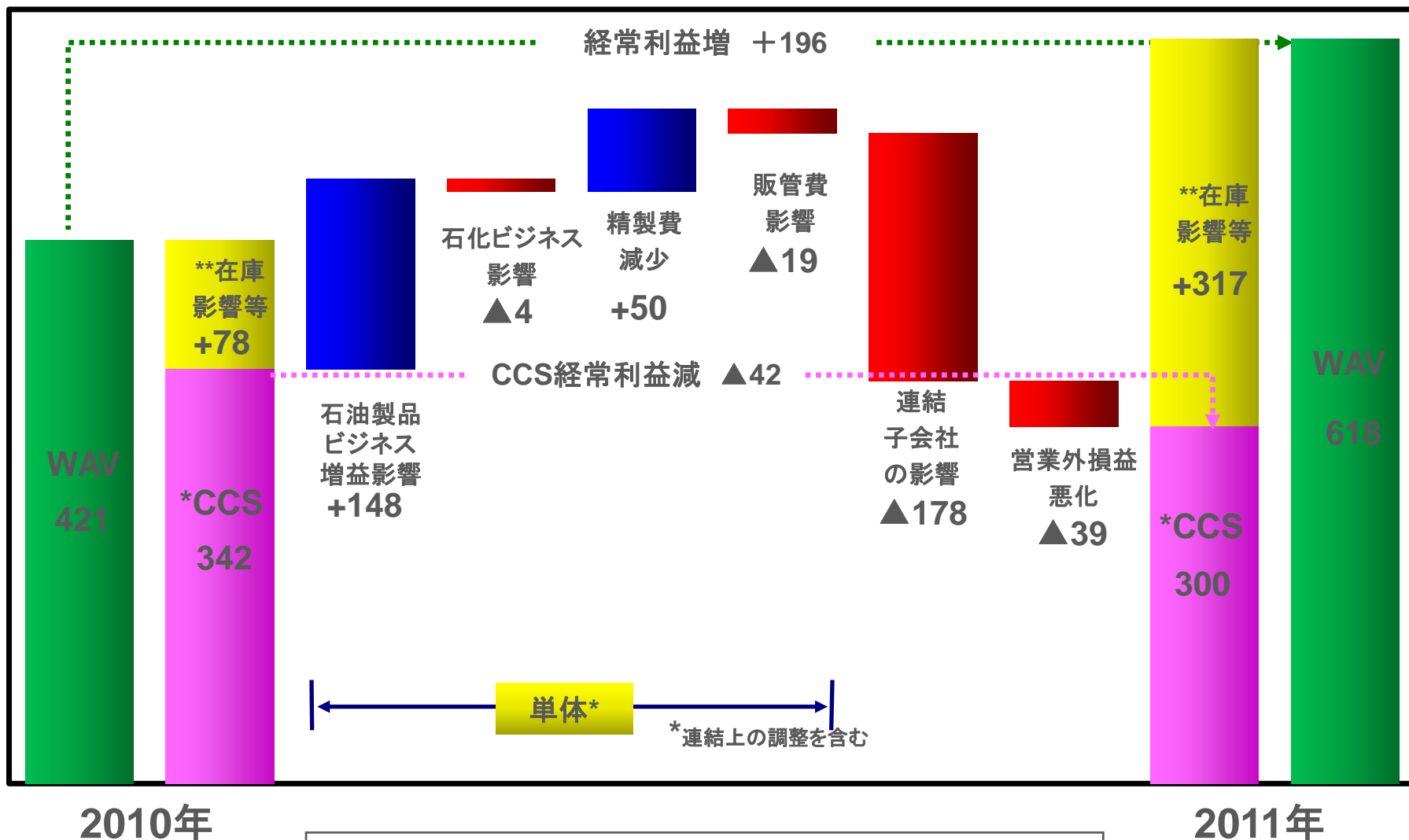
- ✓9月に実施した京浜製油所扇町工場の閉鎖後も、安定した供給を継続しました。グループ3製油所は高稼働を続け、さらなる効率運転を実現しています。
- ✓国内販売について、販売数量は中間留分を中心に前年同期比で増加しました。マージンについては、ガソリンが海外マーケットの弱さを反映して低迷、灯油が高い国内在庫量による供給余剰感から伸び悩むなど、全体的に前年同期比で悪化しました。
- ✓輸出について、扇町工場閉鎖の影響により、数量は大きく減少しました。マージンについては、第3四半期に引き続き新興国の需要を背景に中間留分で堅調に推移しました。

■ エネルギーソリューション事業(太陽電池事業)

- ✓世界最大規模の生産能力を誇る国富工場は、安定的に商業生産を続けました。
- ✓生産量の増加に伴い、販売量も大きく増加しました。需要は世界各国で旺盛で、2011年度に最も需要の多かった欧州を中心に、日本国内、米国、アジアなどにも販売し、世界に向けた販売体制を構築いたしました。
- ✓製品価格は引き続き下落し、2011年間にモジュール価格は約40%下落する結果となりました。しかしながら、足元では下落スピードは鈍化傾向にあります。

要因分析

(単位: 億円)



* CCS: Current Cost of Supply (在庫評価の影響を除いたもの)
 ** 「在庫影響等」には、たな卸資産の簿価切下げによる影響を含む。

2011年通期 原油処理実績と販売数量実績

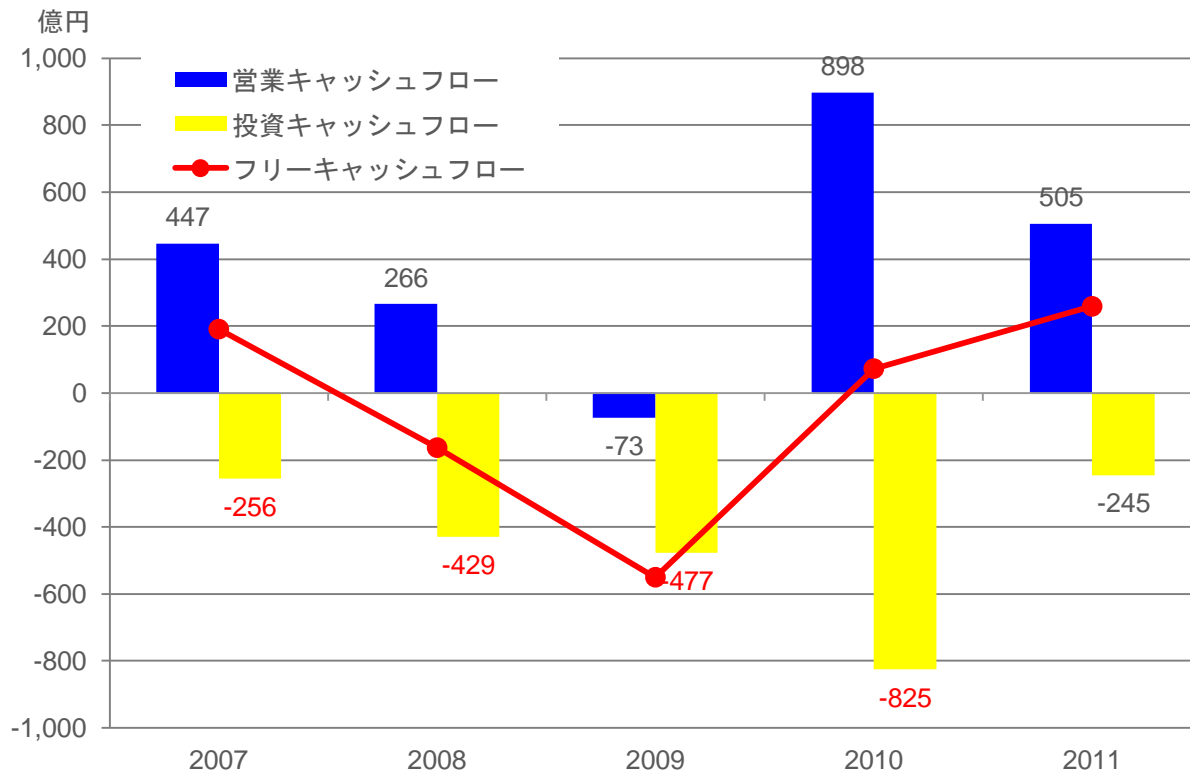
■ 原油処理実績と稼働率

		2010年度	2011年度
原油処理実績	(千KL)	25,168	26,212
稼働率	(%)	84.2%	93.2%

■ 製品別販売数量

(千KL)	2010年度	2011年度	前年同期比
揮発油	9,089	9,494	+ 4.5%
ジェット燃料	2,105	2,077	- 1.3%
灯油	2,407	2,816	+ 17.0%
軽油	4,377	4,952	+ 13.1%
A重油	1,433	1,610	+ 12.3%
C重油	1,424	1,769	+ 24.3%
その他	4,196	4,195	- 0.0%
輸出	4,606	3,548	- 23.0%
合計	29,637	30,462	+ 2.8%

連結キャッシュフロー推移



(百万円)	2010年	2011年	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	89,836	50,551	- 39,285
投資活動によるキャッシュ・フロー	-82,510	-24,560	+ 57,950
フリー・キャッシュ・フロー	7,326	25,991	+ 18,665
財務活動によるキャッシュ・フロー	-8,671	-31,159	- 22,488

SS数推移

■ 固定式SS数とセルフSS数 ※12月末時点

(ヶ所)	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
固定式SS数	4,481	4,305	4,143	3,948	3,782
セルフSS数	719	852	947	960	963
セルフSS比率	16.0%	19.8%	22.9%	24.3%	25.5%

平成24年12月期連結業績予想

■ 原油価格と為替レートの前提

		2011年度 実績	2012年度 想定
ドバイ原油価格	(USD/バレル)	106.3	110
為替レート	(¥/USD)	79.8	77
	(¥/EUR)	111.1	100

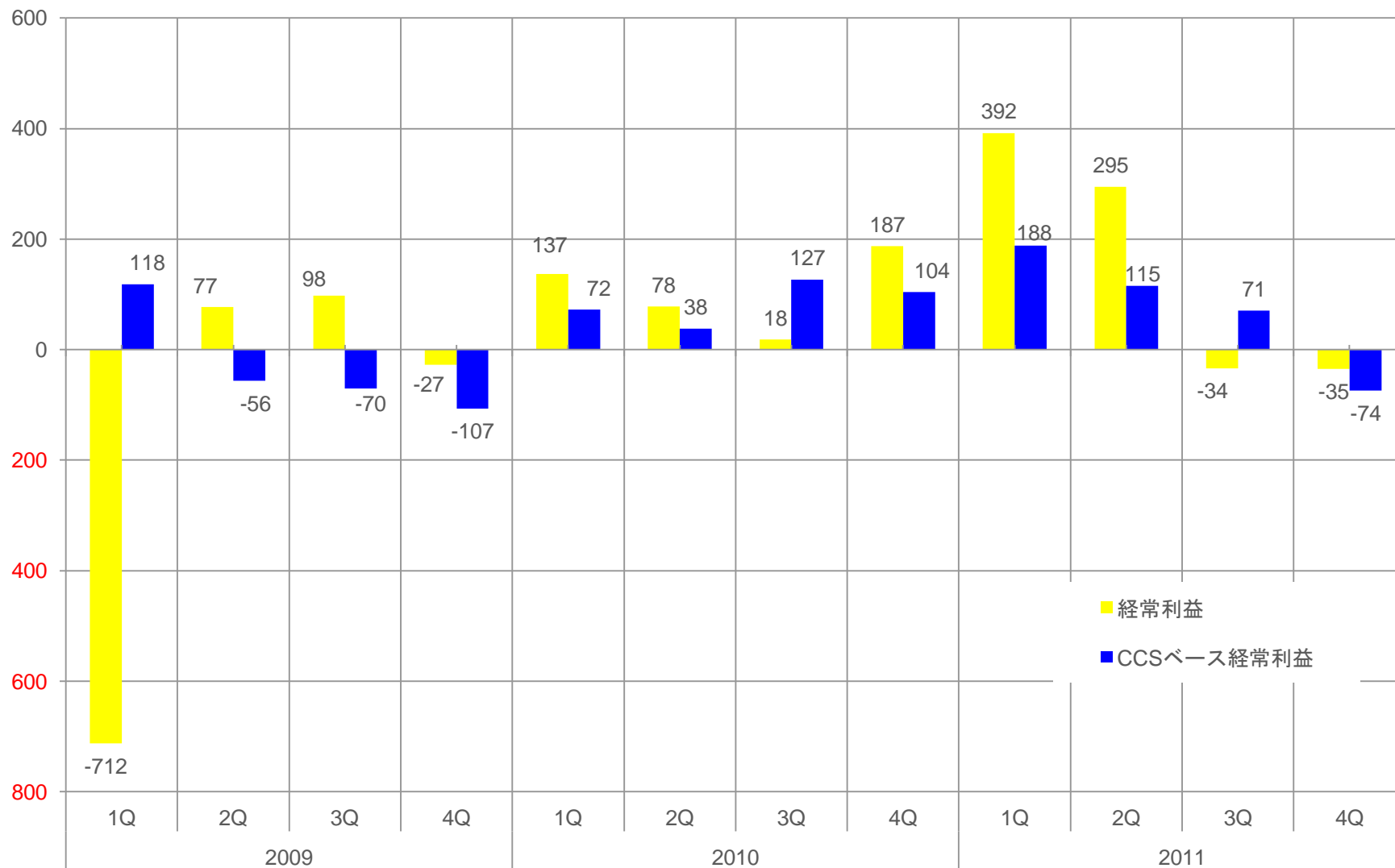
■ 連結業績予想

(百万円)	2011年度 実績	2012年度 予想	前年比(%)
売上高	2,771,418	2,630,000	-5.1%
営業利益	60,288	31,000	-48.6%
経常利益	61,807	30,000	-51.5%
※在庫影響	31,787	0	-100.0%
※CCSベース経常利益	30,020	30,000	-0.1%
当期純利益	23,110	11,000	-52.4%

参考データ集

四半期別 経常利益の推移

単位:億円



決算ハイライト(10-12月)

■ 原油価格と為替レート

		2010年度 10-12月実績	2011年度 10-12月実績
ドバイ原油価格	(USD/バレル)	84.4	106.5
為替レート	(¥/USD)	82.7	77.4
	(¥/EUR)	112.2	104.3

■ 連結損益計算書ハイライト

(百万円)	2010年度 10-12月	2011年度 10-12月	増減	前年同期比(%)
売上高	608,533	693,781	85,247	+14.0%
営業利益	18,390	-3,300	-21,691	-
営業外損益	373	-271	-645	-
経常利益	18,763	-3,572	-22,336	-
※在庫影響	8,355	3,891	-4,463	-53.4%
※CCSベース経常利益	10,408	-7,464	-17,872	-
特別損益	-4,712	-8,100	-3,388	-
当期純利益	4,658	-9,404	-14,063	-

【注】カレント・コスト・オブ・サプライ(CCS)ベースの収益: たな卸資産の評価の影響を除いた原価を用いて算出する収益

原油処理実績と販売数量実績(10-12月)

■ 原油処理実績と稼働率

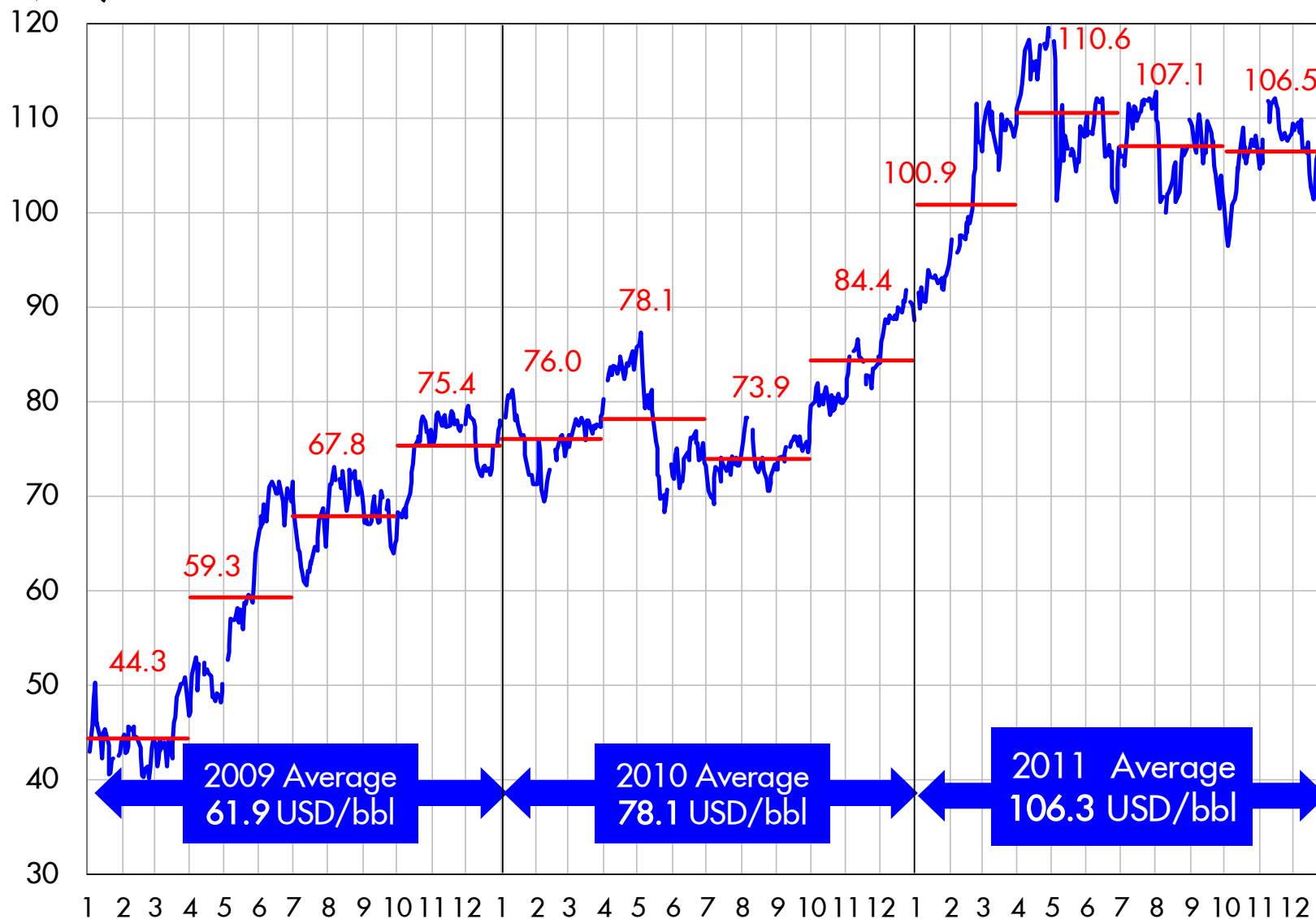
		2010年度 10-12月実績	2011年度 10-12月実績
原油処理実績	(千KL)	6,687	5,769
稼働率	(%)	88.8%	99.8%

■ 製品別販売数量

(千KL)	2010年度 10-12月実績	2011年度 10-12月実績	前年同期比
揮発油	2,284	2,384	+ 4.4%
ジェット燃料	479	533	+ 11.2%
灯油	796	906	+ 13.8%
軽油	1,149	1,271	+ 10.6%
A重油	409	442	+ 7.9%
C重油	397	492	+ 23.9%
その他	1,053	1,056	+ 0.2%
輸出	1,209	571	- 52.8%
合計	7,777	7,654	- 1.6%

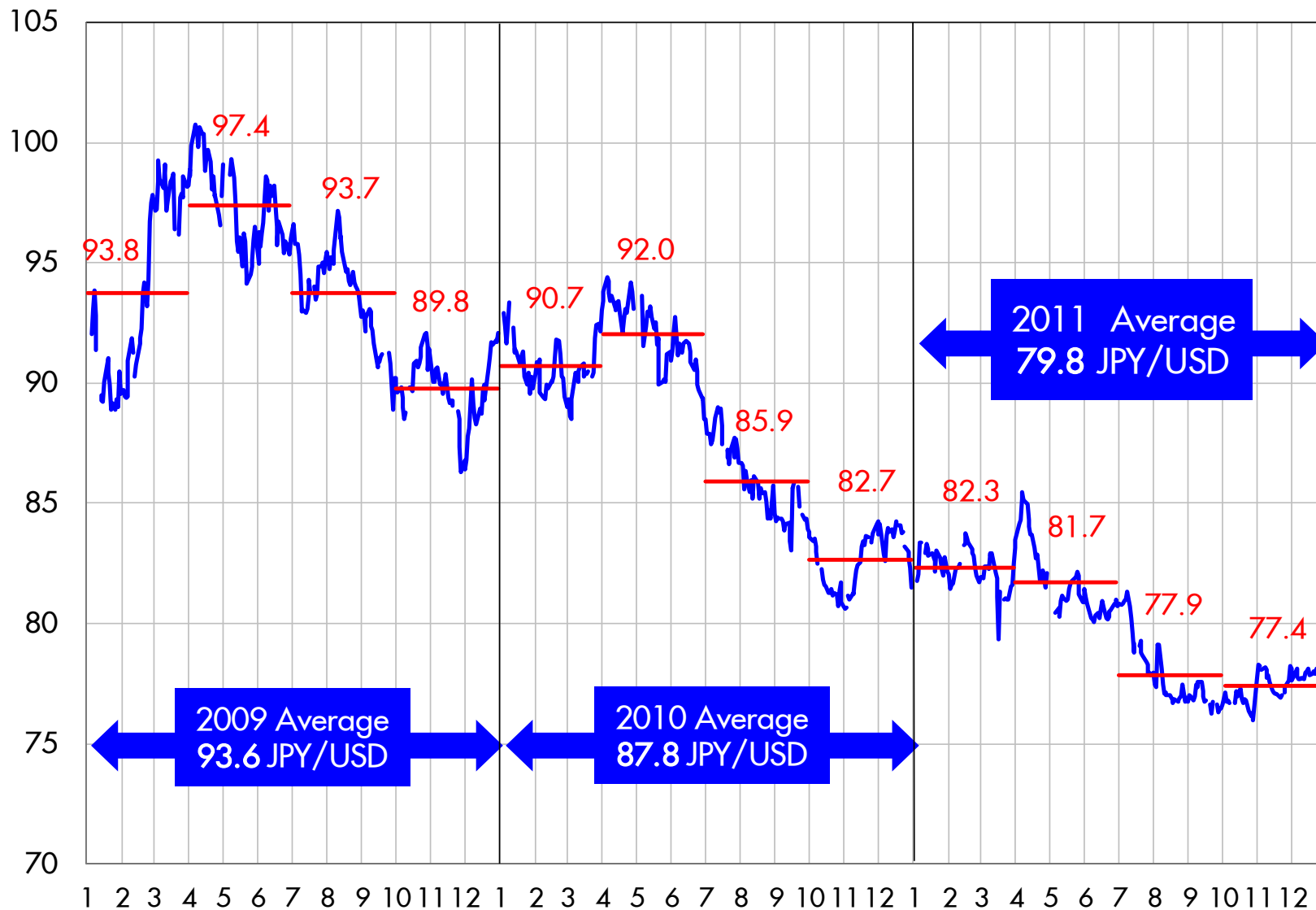
ドバイ原油価格の推移

(USD/bbl)



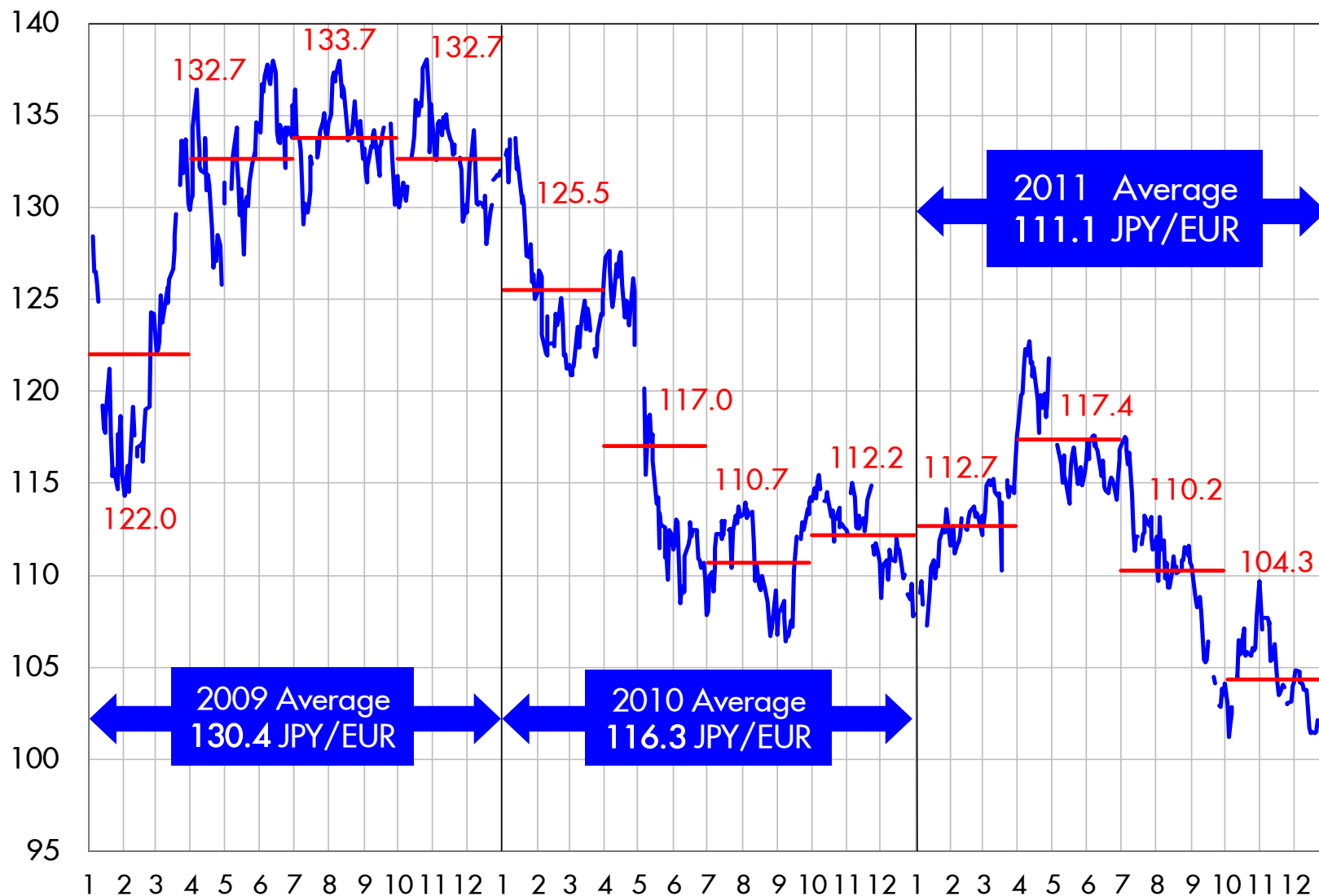
為替レートの推移(円/アメリカドル 仲値)

(JPY/USD)



為替レートの推移(円/ユーロ 仲値)

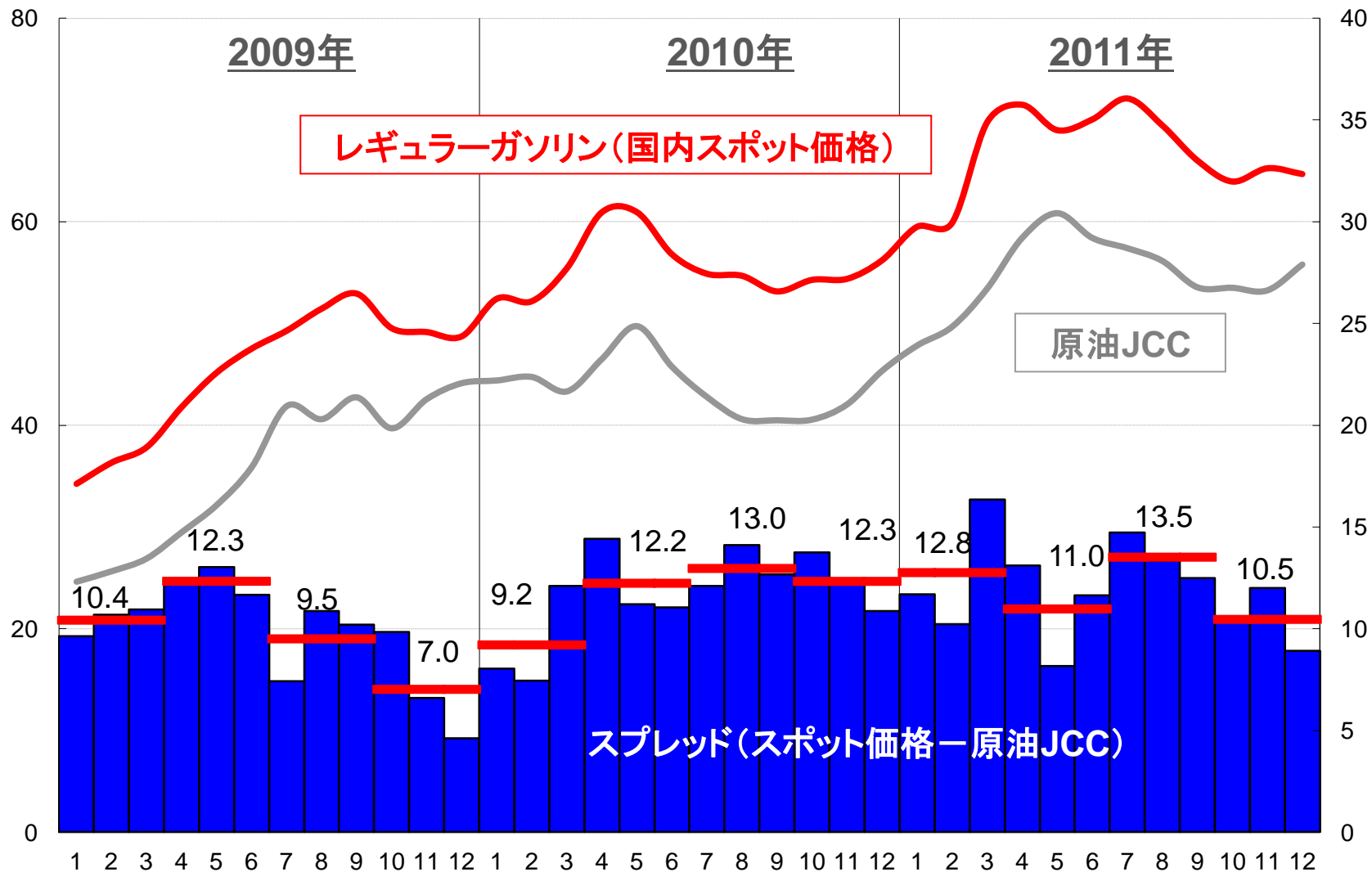
(JPY/EUR)



国内マーケットの状況①(ガソリン)

原油・製品価格 ¥/L

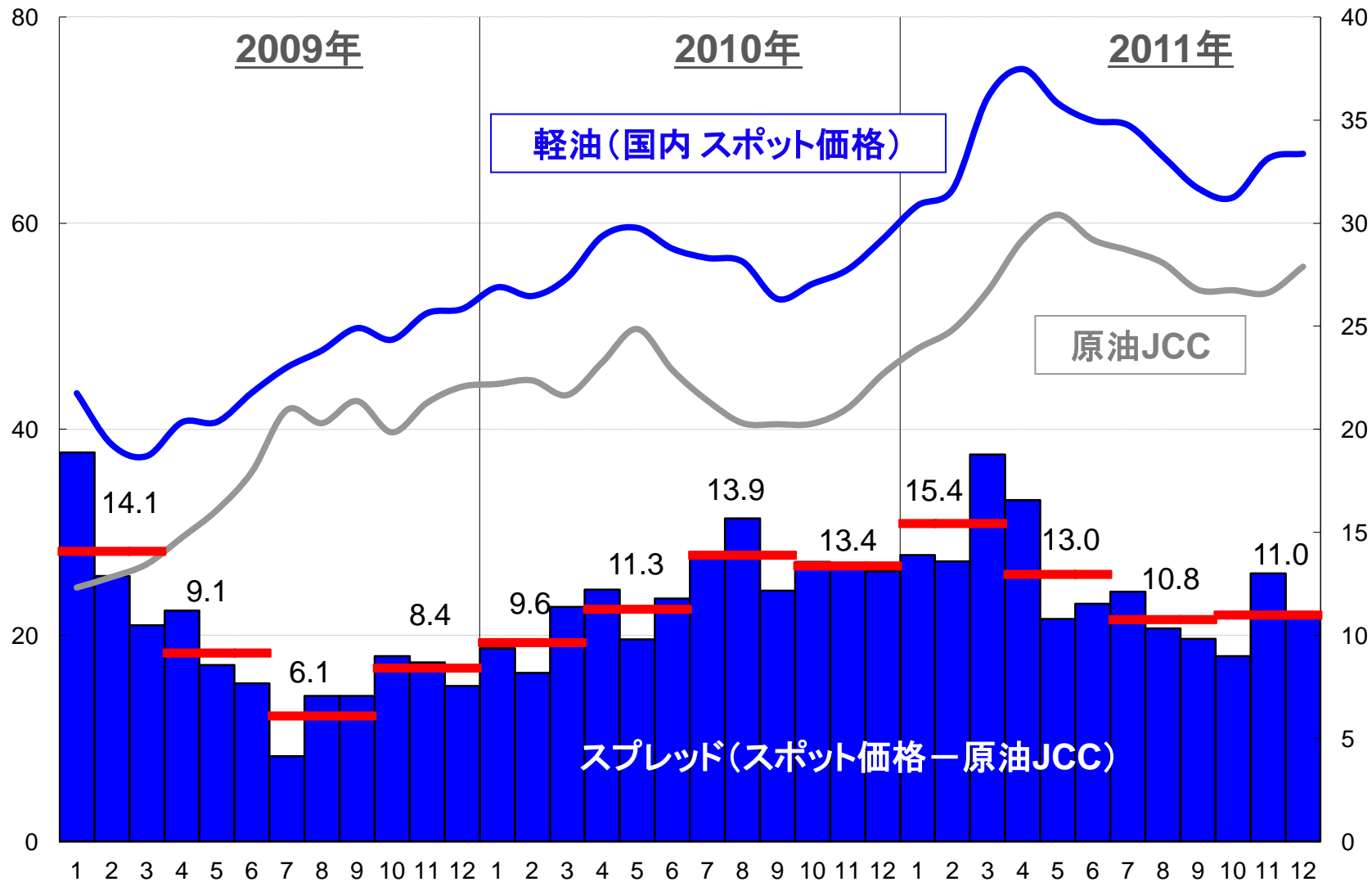
スプレッド ¥/L



国内マーケットの状況②(軽油)

原油・製品価格 ¥/L

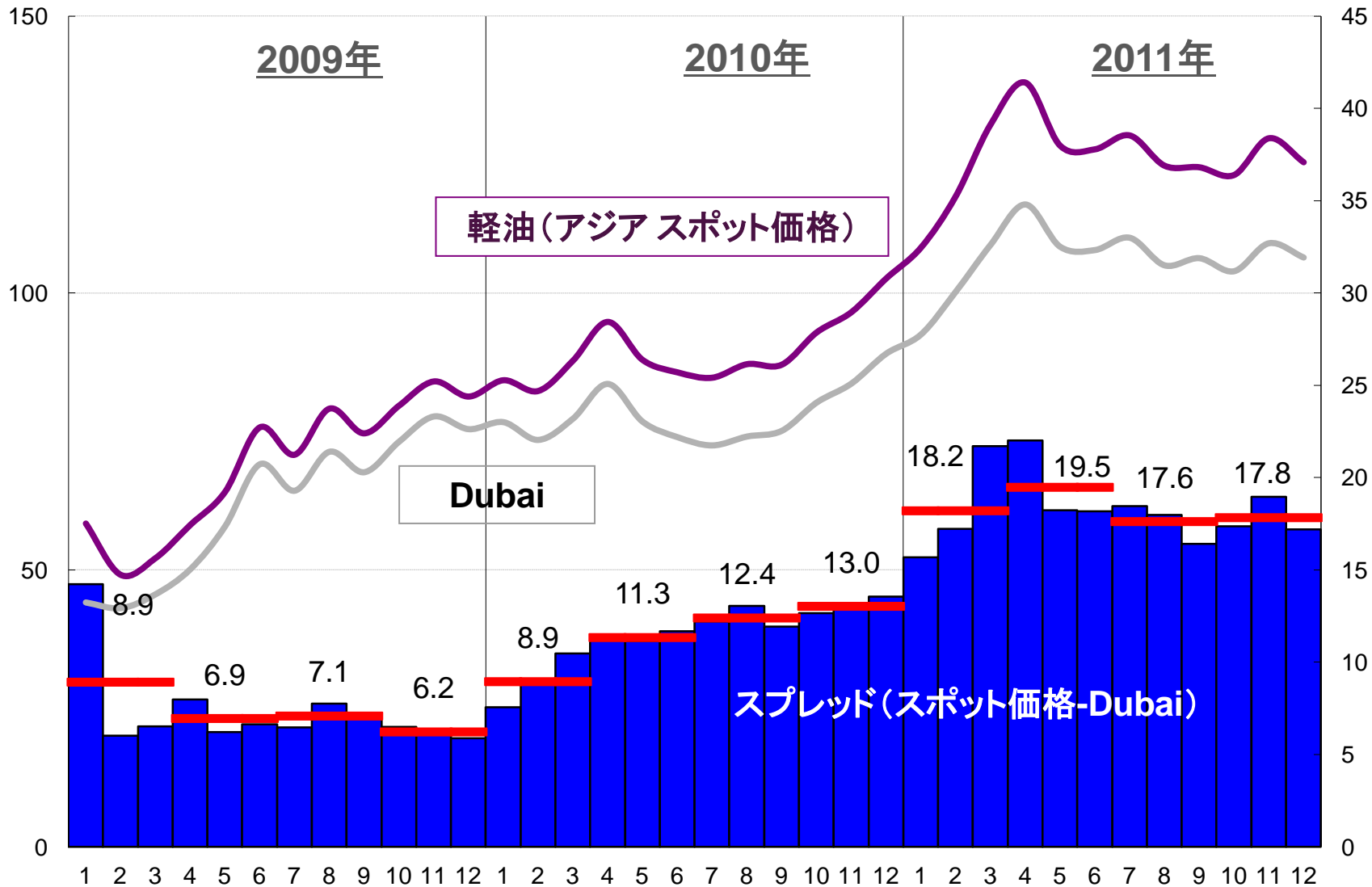
スプレッド ¥/L



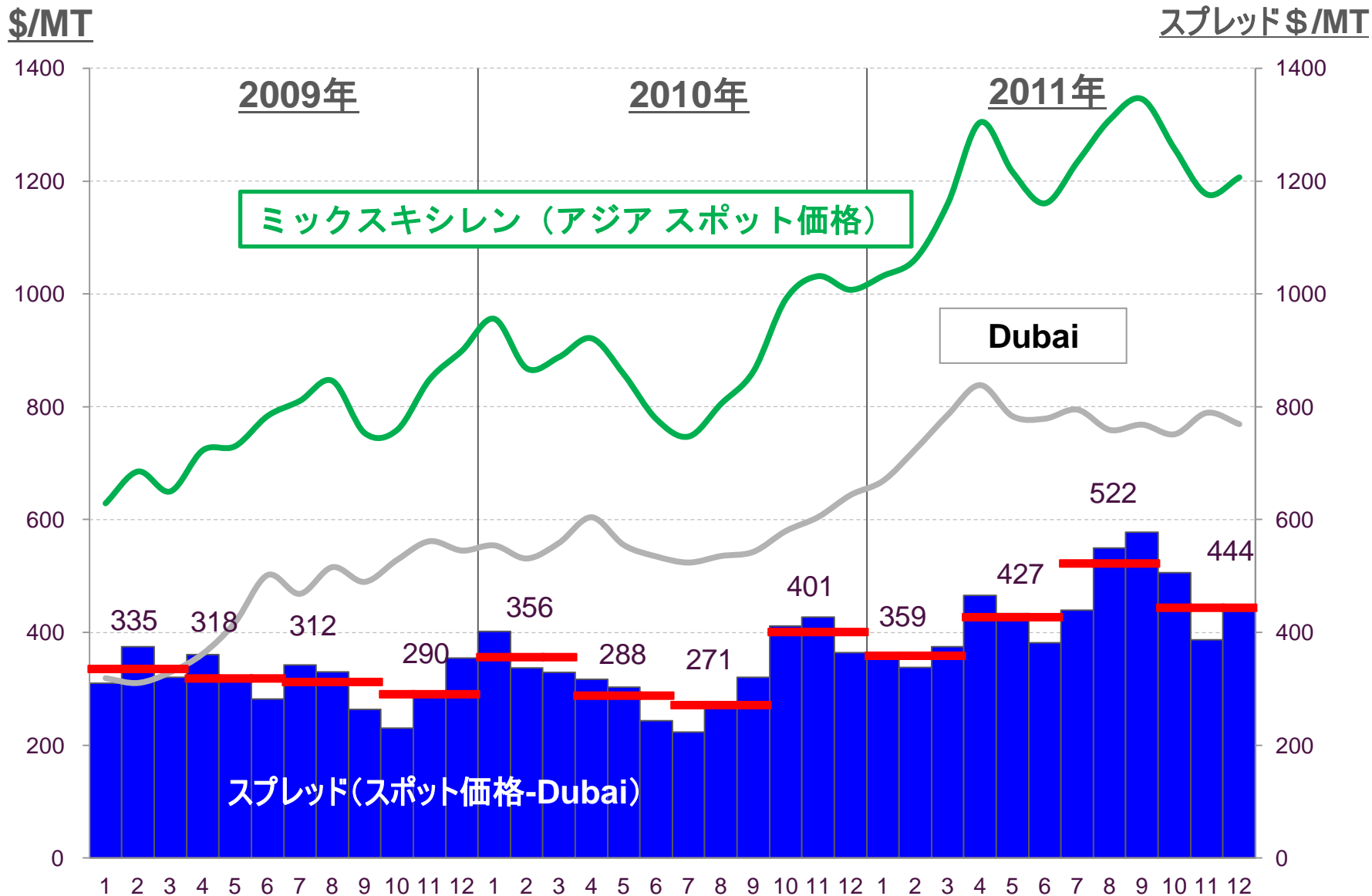
海外マーケットの状況①(軽油)

\$/bbl

スプレッド\$/bbl



海外マーケットの状況②(ミックスキシレン)



2011年第4四半期 トピックス

新たな市場に続々参入！

ソーラーフロンティアは、既に参入していた欧州(ドイツ・スペイン・イタリアなど)、日本、アメリカ、サウジアラビア、タイなどの市場に加え、フランス、インドのマーケットにも進出を果たしました。



世界の太陽電池需要は引き続き高い伸長を見せており、政府の支援策に支えられながら、日々その主要マーケットが変動しています。ソーラーフロンティアは、独自技術で世界を牽引するCIS薄膜太陽電池を、世界中のお客様にお届けしていきます。

(写真は、フランス・ベソン(Bessan)にベレクトリック社と共同で設置した4.2メガワットの発電所)

「シェル ヒートクリーン」販売開始！【11月】

天然ガスから作られるGTL(Gas-To-Liquids)を原料とするファンヒーター専用の灯油「Shell エコ灯油」を、11月1日より「シェル ヒートクリーン」に名称変更するとともに、販売チャネルおよび地域を拡大して販売を開始しました。一般的な灯油に比べてにおいやべとつきが少なく、お部屋での保管や給油作業がより快適にできます。昨年は関東および近畿の119店舗に限定していた販売地域を、北海道から九州の約400店舗に拡大するとともに、インターネットの宅配販売も行っています。



世界最大規模の太陽光発電所へCIS薄膜太陽電池を供給

ソーラーフロンティアとエネクスコ社は、米カリフォルニア州に建設世界最大級の大規模太陽光発電所に、約150メガワットのCIS薄膜太陽電池を供給する契約を締結し、2011年第4四半期から供給を開始しています。この成果はCIS薄膜太陽電池技術を背景に、ソーラーフロンティアの認知・信頼が、世界中で大きく高まった証と捉えています。

